退任挨拶

親“同志”の縁に感謝

令和５年度育友会長　小海祐資

このたび、令和６年６月１日に開催されました育友会定期総会終結のときをもちまして任期満了となり、育友会長を退任いたしました。この一年間、育友会長として育友会活動に携わってまいりましたが、つつがなく務めを果たすことができましたのも、ひとえに全国の育友会員の皆さまをはじめ、育友会本部・支部役員の皆さま、大学教職員の皆さま、校友会の皆さま、そして育友会事務局の皆さまからの数多くの支えがあったからこそと実感いたしております。あらためまして皆さまには心より御礼申し上げる次第でございます。

今から４年前、会報『育友』の巻末に付いていた育友会の読者アンケートはがきを目にして、「大学で父母会？なんだか面白そうだな」というほんの軽い気持ちで答えたはがきを投函したところから、私の育友会活動は幕を開けました。以来、さまざまな育友会活動に携わっていくなかで、「子どもの母校は我が母校」といつしか本気で思えるまでになっており、自分自身、まさかここまで育友会活動にどっぷり浸かるようになるとは、４年前には想像すらできませんでした。これも、育友会活動の中で巡り合えた親同士の交流があったからこそだと思っております。この歳になってから、年齢も職業も異なる方々と新しく知り合い、交流を深めることができるなど思いもよりませんでした。ですが、私にとっての育友会活動の醍醐味は、まさにこの一点に尽きると申しても過言ではございませんでした。

我が子が専修大学の門を叩いてくれたことで知り合うことができた親同士が、専修大学のサポーターという親“同志”となって、大学と学生と親とのトライアングルの一翼を担うというこの姿が、育友会活動の根幹をなす在り方であると思っております。そして、この育友会活動の柱となるのが、この夏にも全国67支部・62会場での開催が予定されております支部懇談会であることは、論を俟たないところであります。コロナ禍によって支部懇談会の開催が叶わず、支部活動の引き継ぎも十分に行うことが困難であった雌伏の時を経て、コロナ禍以前の支部懇談会の姿を取り戻そうという支部役員の皆さまの情熱により、支部活動が精力的に行われていることには本当に頭の下がる思いであります。一方で、新たな支部役員の担い手がおらずにご苦労されている支部は依然として少なくなく、この先も育友会が持続的に発展していくうえでの大きな課題であると思っております。支部の皆さまの声に耳を傾けて、育友会として何ができるのか、何をするべきなのか、という問いに対して一つずつ答えを出していく必要があると思っております。

新会長には溝田勝彦さんが就任されましたが、新しい本部役員の皆さまと一致団結して「オール専修」の旗の下、育友会のさらなる発展に向けて精力的に育友会活動を牽引してくださることを確信いたしております。

最後になりましたが、専修大学にご縁のあるすべての皆さまの益々のご発展とご健勝を祈念申し上げまして、私の退任の挨拶といたしたく存じます。ありがとうございました。